

第21回 茅ヶ崎海岸侵食対策協議会

◇ 開催概要

日時: 令和6年3月16日 16:00~18:20

場所: 藤沢土木事務所汐見台庁舎 1階会議室

出席者: 委員18名、事務局13名、傍聴者0名

議事概要

1. 開会

規約改定について報告した。(資料1)

2. 第20回協議会の概要(資料2)

第20回協議会の内容を確認した。

3. 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価(資料3)

・2006年1月~2023年3月までに養浜を実施

柳島地区:11.0万m³、中海岸地区:51.7万m³、菱沼海岸地区:13.9万m³

(1) 柳島地区

・2016年以降、波向変動に起因する汀線変動が起きているが、海浜面積は大きく変わらない。

(2) 中海岸地区

・2023年11月では浜幅 $B' = 47.9\text{m}$ と計画浜幅を $B' = 50\text{m}$ をおおむね満足しており、安定的に防護機能を確保している。

(3) 菱沼海岸地区

・2022, 2023年の合計で4.3万m³の砂が前浜に投入されたが、高波浪が来襲していないことから、海域への砂の供給量は小さい。

・令和5年度の養浜結果を注視しつつ、引き続き養浜を継続する必要がある。

4. 茅ヶ崎海岸の中海岸地区と菱沼海岸地区の海浜状況調査(資料4)

・工事が進められている菱沼海岸地区でのサンドエンジン養浜の進捗状況を観察するとともに、隣接の茅ヶ崎中海岸地区での通常養浜箇所を調べるため、海岸の状況調査を行いその結果について説明があった。

5. 茅ヶ崎養浜環境影響調査結果報告(資料5)

・水質: 透明度、SS(浮遊物質)は令和4年調査とほぼ同様の傾向である。

・底質: 粒度組成は、全体的に細砂主体。St.8とSt.12は粘土・シルトの割合が高い。

COD(化学的酸素要求量)、全硫化物は、水産用水基準以下である。

・底生生物: 総個体数、種数は令和4年調査よりやや少ない。

・汚濁指標生物: 令和4年調査よりも多い。

- ・合成指標による底質評価:正常な底質と判断される。
- ・海底景観:令和4年調査同様の状況であった。

6. 令和6年度養浜工事について(資料6)

- ・令和6年度養浜予定

柳島地区:5,000m³、中海岸地区:10,000m³、菱沼海岸地区:22,000m³

7. 閉会

☆ 委員意見概要

主な委員意見を整理した。(●意見、⇒意見に対する回答など)

- ここ数年台風はなかったのですが、昨年の暮れは非常に風が吹いて、サイクリングロードが全く通れず過去にもないような状態にまでなってしまった。堆砂した砂は細かい砂ばかりではなくて、中砂的なものも入っているということで、サイクリングロードの堆砂除去と養浜は、県の予算が違うと思うのですが、堆砂した砂を養浜できるのであれば、同じ予算でできるのかなという思いもあります。【岡崎委員】
 - ⇒ 堆砂した砂は、養浜材として適さないと考えていたが、堆砂したうち半分ほどの砂は粒形が十分大きく、汀線に置くとそのまま残ってくれるような材料だとわかった。堆砂する砂を養浜に使用することは、科学的側面からも無駄な行為ではない。【宇多副会長】
 - ⇒ 令和5年12月頃の強風により、例年になくサイクリングロードに堆砂してしまったため、養浜工事の範囲に隣接している区間では、堆積した砂を海浜に移動させる連携を行った。来年度以降も連携して海浜に移動させるといった方法を検討していく。【事務局】

- 菱沼海岸のところの4号水路の東側は、今年度も白浜町から地引き網（西網）辺りまで盛土養浜をしてもらったと思いますが、来年度に関しても同じように養浜を行う予定でしょうか。【岡崎委員】
 - ⇒ 来年度も白浜町の盛土養浜を予定している。それよりも地引き網（西網）側は2年前に養浜を行っていて、高波浪がないこともあり、砂浜には十分な砂があると考えている。また、白浜町や菱沼海岸の養浜土砂が東の向きに移動して、海浜が回復することを期待している。【事務局】

- サイクリングロードの幅が5メートルあるということですが、ここ何年かは、とにかく砂がたまって、まともに走れないし、歩けない。何とか幅を確保してほしい。砂は絶対に飛んでくるわけだから、それを防ぐための何かいい方法をこれから見つけていくため、議論の余地があるのではないのでしょうか。【鈴木委員】
 - ⇒ 風が吹いて砂が飛んでくるのは仕方がない。一方で、サイクリングロードに堆砂してほしくはない。であれば、砂が浜側に留まるような柵を巡らすなどの方法を長期的に考えて対策を検討していくしかない。【宇多副会長】
 - ⇒ サイクリングロードは昭和45年に浜側に沿って整備されたが、飛砂を軽減する目的である砂防林の浜側にある限り、風が吹けばサイクリングロードに堆砂する。そのため、竹柵を設置しているが、特に著しく堆砂する箇所は二重化を進めている。現在、藤沢海岸では、サイクリングロードと砂浜の間に比較的フラットなところが多いので、ポケットをつくる形で、昨年度、今年度と二重化した一方、茅ヶ崎海岸では、サイクリングロードと砂浜に高低差があることから、地形の状況を見ながら二重化が図れるか検討していく。【事務局】

- 雄三通りから東側に見晴らしデッキがあって、見晴らしデッキから東側の5号水路に向かったところに一段高い木道のような歩行路があったのですが、いつの間にか砂置場みたいになって、全然使われなくなりました。あれはもう要らないものだと判断されたのだったら、取ってしまえばサイクリングロード幅が

広がると思っています。使えないなら、要らないのではないですか。【伏見委員】

⇒ 確かにサイクリングロードの脇に、約2メートル幅の歩行路が過去につくられて、現在、飛砂で隠れてしまっている状態である。歩行路として使用するか、飛砂が激しくすぐにまた埋没することを考えると撤去するのが良いかを検討していく。【事務局】

- ヘッドランドの東側にもあった歩行路は完全に取ってしまった。【岡崎委員】
- 歩行路の木が腐って、修理に費用がかかるのと、釘が露出して危険でもあったので、撤去してくれた。そのときにコンクリート基礎を残してもらったが、今は全てが埋まってしまっている。【小川委員】
- 湘南海岸は竹す柵だけで飛砂を防備しています。白浜や伊豆では、わざと風向きに合わせて斜めの柵をつくるなど、いろいろな工夫はしています。先週行ってきたのですが、その斜め柵でも全部埋まってしまっていました。ヘッドランドのところは、茅ヶ崎市がちょうどイベントデッキ前にも柵をつくっていますが、それも今、全部埋まっている状態です。埋まってしまったら、どこに柵があるのかわからず手つかずになってしまい、それが飛散してくるという悪循環になっています。今の風の状況も昔と全然違うので、本当に模索されていることなので見守るしかないと思う。ただ、やはり景観と美観といったこともあって竹す柵になっているのではないかと思います。竹す柵は本当に1年しかもたない。なおかつ、砂がいっぱいある以上、すぐに埋まってしまうという状況だと思います。【小川委員】
- 6号水路から東側、ヘッドランドよりも西側ですかね。あそこの海を見ましたら、一部かなり黒く濁っていました。土が入っているような感じでした。水質などで特に大きな問題はないということだったのですが、それが今回の養浜工事に関係していないのか。自然現象なのかはわかりませんが、泥というかなんか黒くなっていたので、なぜかなと思いました。ヘッドランドまで行くと、青くはないですけども、ふだんの海の色で、あそこだけ土砂が入っているみたいな、泥んこみたいな感じだったので、関係があるのかなのか、ただの自然現象なのか、どんな感じなのか疑問に思ったことがありました。【飯島委員】

⇒ 多くの場合、養浜の土砂の中に砂鉄分が入っていると、それが表層にごく薄く乗って、海浜の土砂が真っ黒く見えることもある。一方で、深さ方向に全部がそのような土砂であるのはむしろまれで、ごく表面に、波が砂を寄せて堆積するときに、上面に非常に集積しやすい条件の場合もあるので、一概にそれがずっとあり続けるというものではない。【宇多副会長】
- これだけ並々ならぬ努力で砂浜を広くするためにやっているのですが、なかなか市民に伝わってないということはあります。茅ヶ崎市役所の大ホールに大スクリーンがあるのですが、茅ヶ崎の魅力として海のことやサーフィンのことが繰り返し出ています。そういった場面でも、こういった努力の上に形成されているという案内表示を差し込みでやってはどうか。アピール効果でこの努力を知ってもらいたいです。【伏見委員】

⇒ 本来、アピールはポジティブにやるべきである。「浜風通信」というアピールもあるけれども、もうちょっとアピールをしても良い。【宇多副会長】

⇒ 現地にも養浜の仕方についてPRする看板設置している。それ以外にも茅ヶ崎市役所とも

相談しながら検討していく。【事務局】

- 浜須賀のエリアは、工事に入る前に回覧を回してもらいました。なので、結果報告的に「こうなりました」というのを回覧してもらうのも一つの方法だなと思うのと、市役所のロビーで展示ができますから、こういうことを毎年やっていますという展示をいただいてもいいのかなと思います。【岡崎委員】
 - ⇒ 行政の文章は、とても読むに堪えない。難しい文章ではなく、画像や挿絵を工夫して、よく理解してもらえるように作成した方がよい。【宇多副会長】
- サイクリングロードで、トンボをつくってみんなで砂をどけようということをやっているメンバーがいるので、そういったところとタッグを組んで広報するのも一つの手かなとも思います。【岡崎委員】
- オーストラリアではもう既にあるのですが、サーファーのために、見えない海底に扇形のプラットフォームを造っています。大きな台風とかが来ると、そこで消波する役目もあるわけです。そして、この両サイドにすばらしい波が起きる。だから、サーフィン文化をこの養浜事業のどこかに入れ込んでいただきたい。【鈴木委員】
 - ⇒ オーストラリアの事例はよく分かっている。ただ、ここの菱沼海岸では、人工構造物を造ったら元にはもどらないので、人工構造物ではなく砂で造ればよい。サンドエンジンをもう少し突出させる方法もある。サンドエンジンの量とやり方を工夫して、あたかも人工構造物のように海底に砂山があって、その周りでサーフィンができるといったことも考えられなくはない。そういう対応であれば、砂が下手のほうに流れていき、悪影響は及ぼさない。【宇多副会長】
- 柳島の人工リーフは、釣りにも駄目だし、波浪が来てしまって深くなってしまっている。柳島地区は湘南の江の島の方から見たら外れだけれども、今度圏央道のところに道の駅ができて、茅ヶ崎としては正面玄関の部分にもなるし、今のままは本当にもったいないなと思っています。【伏見委員】
 - ⇒ 柳島の人工リーフで大きなブロックがぼんと波で飛んで深くなっている問題があるというのは重々承知している。ただ、侵食対策の検討が茅ヶ崎中海岸から菱沼海岸に移って、菱沼海岸をある程度軌道に載せないといけない。ただし、その間も起こっていることはきちんとモニタリングしなければいけない。【宇多副会長】

以上